神遊 第11回公演 ろうそく能 恋重荷

Kamiasobi the 11th Stage
Koi-no-omoni

火影にゆれる、老いらくの恋

昨年の御好評に応え、今年も神遊のろうそく能が帰って来ました。
今回のテーマは、身分違いの恋。
昔々の世の理（ことわり）では許されぬ恋の行方とその果ての妄執を、
流麗な演技で知られる梅若万紀夫師がお送りします。
いにしえの御所の物語、文明開化の街・横浜でお楽しみ下さい。

番組

——みどころと解説（仕舞 敦盛 など）—— 観世 喜正

——ろうそく火入——
火入れ後は原則的に入退場はできません。（休憩はございません）

狂言 悪太郎 *Akutarou*
シテ（悪太郎） 山本泰太郎
アド（伯父） 山本 則直
アド（出家） 山本 則重

能 恋重荷 *Koi-no-omoni*
ツレ（女御） 梅若 紀長
シテ（前・山科の荘司）（後・荘司の亡霊） 梅若万紀夫
ワキ（侍臣） 村瀬 純
アイ（御所の下人） 山本 則直
後見 中森 貫太 中村 裕
大鼓 柿原 弘和
小鼓 宮増新一郎
太鼓 観世 元伯
笛 一噌 隆之
地謡 馬野 正基 加藤 眞悟 鈴木 啓吾 伊藤 嘉章 遠藤 喜久 観世 喜正 奥川 恒治 弘田 裕一

［あらすじ］

【悪太郎】大酒飲みで乱暴者の悪太郎は、今日もまだまだ飲み足りず、伯父の所へ酒をねだりにやって来た。甥の酒乱を諌める伯父に、本日限りで酒は断つと嘘をついてまたもやしこたま飲んだ悪太郎は、とうとう帰る途中に往来でのびてしまう。後をつけた伯父は、全く反省の無いその態度についに堪忍袋の緒を切らし、悪太郎を僧形に変え、これからは南無阿弥陀仏と名のれと言い置いて去ってしまう。酔いが覚めて起きた悪太郎はびっくり仰天。そこへ僧が、南無阿弥陀仏と唱えながらやって来た…

【恋重荷】白川院の御所に、菊の下葉を取る山科荘司（やましなのしょうじ）と言う身分卑しい老人がいた。ある時荘司は女御（にょうご）の姿を垣間見、恋をしてしまう。卑しい者がうっかりお姿を見るのさえ罪なのに、ましてや恋をするなど言語道断なこと。女御は荘司の恋を諦めさせようと綾錦で包んだ重荷を用意し、これを持って庭を百回・千回と廻ったならば今一度姿を見せようと約束する。勇む荘司は荷を持とうとするがどうしても持てず、ついには空しくなり果てる。これを聞いて悔やむ女御の前に荘司の亡霊が現れ、恨みをこめて責めさいなむのであった。

神遊

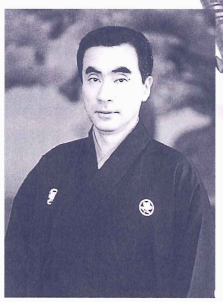
宮増新一郎

観世喜正

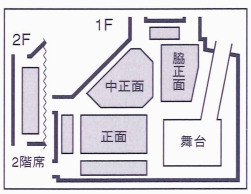
観世元伯

柿原弘和

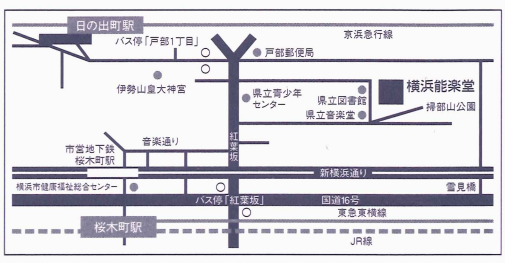
一噌隆之


梅若万紀夫

平成12年8月5日（土） 開演午後5:00/開場午後4:00（終演予定7:00頃） 横浜能楽堂



全席指定 正面席 7500円／脇正面席 5500円
中正面・2階席 3500円 English Program Availavle

お問い合わせ・お申し込み：神遊03-5227-1830 kamiasob@wc4.so-net.ne.jp
チケットぴあ03-5237-9988

横浜能楽堂：〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘27-2（掃部山公園内） TEL.045-263-3050
●桜木町駅（JR線、東急東横線、市営地下鉄線）下車徒歩15分●日ノ出町駅（京浜急行線）下車徒歩18分
●バス「紅葉坂」（市営バス8、58、125系統/神奈中バス横61/江ノ電バス大船駅行、栗木行/京急バス8、20、26、58、105、125）
●バス「戸部一丁目」（市営バス103系統） ※駐車場がございませんのでお車での御来場はご遠慮下さい。